

ドローン活用し林業の課題解消へ

バイオマスパワーテクノロジー

獣害対策資材輸送の大規模実証

本質バイオマス発電
事業やバイオマスエネ
ルギーのコンサルティ
ング等を手掛けるバイ
オマスパワーテクノロ
ジーズ(三重県松阪市、
北角強社長、☎059
8・67・2561)



ドローン輸送実験のようす

は、グループ会社の玉
木材(奈良県五條市、
北角強社長)とともに、
9月3日から10日にか
けて、奈良県五條市の
山間部で獣害対策資材
のドローン輸送実験を
行った。NEDOの支
援事業「紀伊半島エリ
ア各地でのセンダン・
ヤナギ類・ナラ類・カ
シ類等の育苗・植林・
搬出実証」の一環とし
て実施した取り組み

で、ドローンを活用し
た「新しい林業」の構
築を目指す。

今回の実験で使用し
たのは、民生用ドロー
ンの世界市場で約70%
を誇るDJI社の最新
鋭物流ドローン「DJI
FlyCart
30」。最大積載量40kg
という高性能を生か
し、急勾配の山林で1
日当たり50回、実験期
間中に300回を超え
る大規模な荷上げを行
い、全国的に他に類を
見ない規模の実証とな
った。

紀伊半島の山々で
は、鹿による深刻な食
害被害が続出。植林し
ても育たないという悪
循環に陥り、防獣対策
資材の設置が不可欠と
なっている。支柱や網
など重量物の人力輸送
は困難を極め、特に急
斜面での作業は危険度
が高く、多くの時間と
多額のコストを強い
られていた。

この難題に挑むべ
く、ドローン事業者と
林業事業者が連携し実

施した今回の実証で、
同社は「輸送時間、機
体の安定性、発着陸の
安全性などのデータ収
集に成功した」として
いる。今後はこの実験
で得られたデータを詳
細に分析することで新
たな手法や技術開発へ
とつなげ、低迷する林
業の再生に挑戦してい
く方針だ。

防獣対策資材を山間
部に持ち込む際、一度
に人力で運べるのは15
kg程度。そうした労
力や、運搬中の転落・
滑落といった労働災害
の懸念を解消できるこ
とから、ドローンを活
用した荷上げに寄せら
れる期待は高い。同社
は「ドローンがもたら
す可能性は無限大だ。
安全性向上、コスト削
減、そして働き方改革。
山の守り人たちの挑戦
が始まった」とした。